

# 環境経営レポート

【レポートの対象期間：2022年4月～2023年3月】

株式会社 桐生明治

## 《ご挨拶》

当社は1967年創業以来50年間、機械加工一筋に築き上げてきた実績が誇りです。定形カム式自動旋盤からNC自動旋盤と時代と共に変化しつつも、一貫した製造部品メーカーとして信頼される企業を目指してきました。

当社も工場の新設など企業の規模も拡大の方向にあり、変革が環境に影響が大きい事を受け止めなければなりません。

私たちは、地球環境保全が人類共通の課題のひとつであることを認識し、地球環境に優しい企業として、環境へ配慮した企業活動を進める必要があります。環境汚染への継続的な予防を目指し、以下の「環境経営レポート」としてまとめ全社一丸となって取り組んでいきます。

株式会社 桐生明治  
代表取締役  
川中子 雅夫

## 《目次》

1. 環境経営方針	P-1
2. 事業活動の規模	P-2
3. EA21推進体制	P-3
4. 環境経営目標とその実績	P-4
5. 環境経営の取組計画と評価	P-5
6. 環境関連法規制の遵守	P-6
7. 代表者による全体の評価と見直し	P-6

# 1. 環境経営方針

## 〔基本理念〕

(株)桐生明治は、精密機器用金属等の部品製造・販売業務活動を通じて、地球環境の保全が人類共通の最重要課題の一つであることを認識し、事業活動のあらゆる過程において環境への負荷低減及び地球環境の保全に配慮して行動する。

## 〔基本方針〕

環境保全活動を推進するにあたり、以下に主な活動項目を掲げ取組みます。

1. 地域住民の皆様の生活環境、また当社製品の有害化学物質や工程から排出される廃油・廃液に関して法規制を遵守致します。
2. 使用エネルギーの節減、水の使用量、廃棄物の排出制御など、地球規模で環境問題について取組みます。
3. 事業活動に当たり、環境方針・環境目的・環境目標を設定し、その実現の為に定期的な見直しを行い、環境経営の継続的な改善を推進し、資源の有効活用に努めます。

改定日 2021年 6月 25日

制定日 2017年 7月 1日

株式会社 桐生明治

代表取締役

川中子 雅夫

## 2. 事業活動の規模

### 1. 事業所及び代表者名

株式会社 桐生明治

代表取締役社長 川中子 雅夫

### 2. 所在地

本社 〒376-0013 群馬県桐生市広沢町5-1122

太田事業所 〒373-0019 群馬県太田市吉沢町929-1

総務部事務所 〒376-0013 群馬県桐生市広沢町5-1381-1

R&D 〒376-0013 群馬県桐生市広沢町5-1277-2

### 3. 環境保全関係の責任者及び担当者連絡先

代表責任者 : 代表取締役社長 川中子 雅夫

環境管理責任者 : 大谷 智

担当 : E A 2 1 事務局 大谷 智

TEL : 0276-55-8383

FAX : 0276-55-8863

### 4. 対象範囲

株式会社 桐生明治 全組織及び全活動

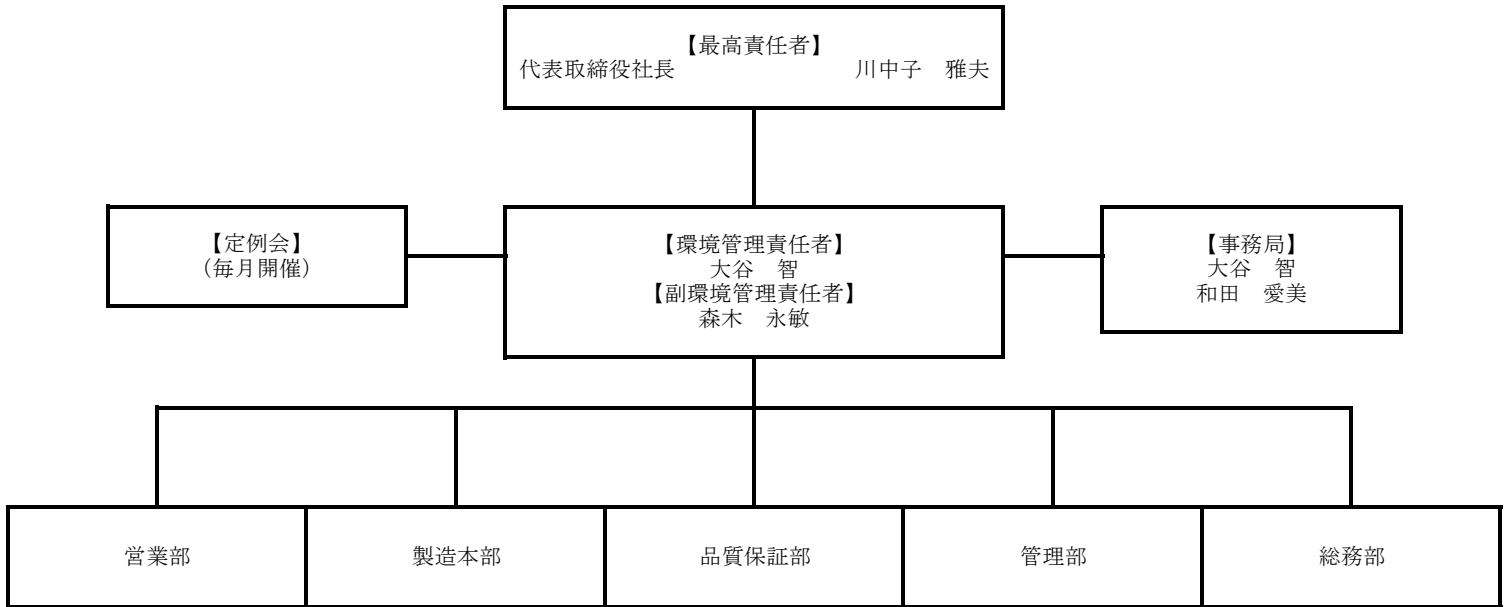
### 5. 事業の内容

精密部品・自動車部品の製造及び加工

### 6. 事業規模

活動規模	単位	2020年度	2021年度	2022年度
売上高	百万円	1,022	1,397	1,646
従業員数	人	95	91	95
延べ床面積(本社)	m <sup>2</sup>	2,059.57	2,059.57	2,059.57
延べ床面積(太田事業所)	m <sup>2</sup>	3,153.77	3,153.77	3,153.77

### 3. EA21推進体制



職名	役割
最高責任者	【川中子 雅夫】 ・環境経営に関する統括責任 ・環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間、技能、技術者を準備 ・環境管理責任者を任命 ・環境経営方針の策定・見直し及び全従業員へ周知 ・環境経営目標・環境経営計画書を承認 ・代表者による全体の評価と見直し、指示を実施 ・環境経営レポートの承認
環境管理責任者	【大谷 智】 ・環境経営システムの構築、実施、管理 ・環境関連法規等の取りまとめ表を承認 ・環境経営目標・環境経営計画書を確認 ・環境経営の取組結果を代表者へ報告 ・環境経営レポートの確認
副環境管理責任者	【森木 永敏】 ・環境管理責任者の補佐
事務局	【和田 愛美】 ・環境管理責任者を補佐し、エコアクション21に関する実務全般を所管する。
定例会	・最高責任者・環境管理責任者・事務局・部門係長で構成し、環境管理責任者が召集する。 ・環境経営目標の設定、環境経営計画の策定及び進捗管理について協議する。 ・社長又は環境管理責任者が必要と認めた者は出席することができる。

## 4. 環境経営目標とその実績

当社に於ける2020年4月1日～2021年3月31日の環境負荷実績を把握し、2021年～2023年迄の目標を下記の通り定め活動を開始しました。

### 1. 環境経営目標とその実績

\*購入電力の排出係数は、0.456〔東京電力エネルギーパートナー、令和3年度実績・令和5年1月24日環境省公表〕調整後排出係数を使用しています。

\*2022年の実績は、2022年4月～2023年3月の12ヶ月のデータです。

環境経営目標	基準値	前期目標		今年度目標				中長期の目標
	2020年度	2021年度		2022年度				2023年度
	実績	目標	実績	目標	目標値	実績	目標の達成状況	目標
①売上100万円当りの 二酸化炭素排出量の削減 (kg-CO <sub>2</sub> /百万円)	1276.34	2020年度実績に対して7%削減	961.2	2020年度実績に対して10%削減	1148.71	884.9	基準に対して削減率-30.67%と達成できた	2020年度実績に対して15%削減
		1187						1084.89
②売上100万円当りの 廃棄物排出量の削減 (kg/百万円) (廃油、木くず、一般廃棄物、ビニール)	17.07	2020年度実績に対して10%削減	9.76	2020年度実績に対して20%削減	13.66	8.87	基準に対して削減率-48.05%と達成できた	2020年度実績に対して30%削減
		15.37						11.95
③売上100万円当りの 水資源投入量の削減 (m <sup>3</sup> /100万円)	1.54	2020年度実績に対して5%削減	1.29	2020年度実績に対して7%削減	1.44	1.08	基準に対して削減率-30.0%と達成できた	2020年度実績に対して10%削減
		1.47						1.39
④化学物質取扱及び 管理の徹底	—	管理の徹底	取扱量の把握	管理の徹底	管理の徹底	取扱量の把握	化学物質の把握・管理ができています	管理の徹底
⑤本業に関する目標 (不良率の削減)	—	品質目標計画による	—	品質目標計画による	—	—	Qアップ会議の実施 無駄のない発注 5Sパトロールの実施	品質目標計画による

### 2. 主な環境負荷実績

環境への負荷	2020年度	2021年度	2022年度
①二酸化炭素排出量 (kg-CO <sub>2</sub> /kwh)	1,304,422	1,342,830	1,456,497
②廃棄物排出量 (kg)	17,450	13,630	14,600
③水資源投入量 (m <sup>3</sup> )	1,578	1,799	1,778

## 5. 環境経営の取組計画と評価

\*2022年4月～2023年3月の12ヶ月の活動の取組みと評価をしております。

環境経営計画	環境経営計画の取組結果とその評価
1. 二酸化炭素排出量の削減 ①空調温度適正化・表示 ②照明・PC電源不要時のOFFの推進 ③エアコン清掃の実施 ④エコドライブ推進 ⑤社用車の点検・整備 ⑥電力、ガソリン量の集計 ⑦目標達成状況・活動進捗状況確認	基準1276.34kg/百万円に対して、実績884.9kg/百万円で結果は-30.67%と達成できた。 すべての項目で削減率はプラスになったが、売上が基準年より61.06%プラスになり、原単位での目標は達成できた。 全体の90%以上を占める、電力使用量に関しては売上が伸びたことにより使用量も増加している。 ガソリンに関しては納品に行く頻度が少なくなり減少傾向にある。 ガスに関しては本社の空調設備で使用しているの増加している。
	次年度の取組内容
	デマンド、太陽光発電等を設置し、リアルタイムで把握できるようになったので、最適な目標値の設定、確認をする。
2. 廃棄物排出量の削減 ①分別ルールの徹底 ②廃棄物置場の整備 ③廃棄物排出量の集計 ④裏紙使用ルールの徹底 ⑤目標達成状況・活動進捗状況確認	基準17.07kg/百万円に対して、実績8.87kg/百万円で結果は-48.05%と達成できた。 廃棄量は昨年度より廃油が750kg、木材は430kgと増加していたが再利用できる紙などを緩衝材として再利用し一般廃棄物に関しては860kg削減できた。削減率は-16.3%であった。
	次年度の取組内容
	一般・業者回収等の分別を徹底する。 紙は緩衝材として再利用。
3. 水資源投入量の削減 ①毎月のメータの確認(漏水防止) ②節水表示 ③トイレの節水 ④目標達成状況・活動進捗状況確認	基準1.544m <sup>3</sup> /百万円に対して、実績1.080m <sup>3</sup> /百万円で結果は-30%と達成できた。 使用量に関しては増加しているが、毎年同じくらいの使用量なので水を出しっぱなしにしないなど少しの努力で削減できるとおもうので各々注意していきましょう。
	次年度の取組内容
	メーターの確認(漏水防止)
4. 化学物質取扱及び管理の徹底 ①取扱商品(化学物質含有)の把握 ②購入量の把握 ③SDSの入手 ④取扱商品一覧表の作成 ⑤管理手順の策定(化学物質含有の場合)	PRTR法に該当する溶剤の購入はない。 今後も継続して監視していく。
	次年度の取組内容
	新規の溶剤等を使用する際は必ずSDSを入手し化学物質の含有について確認する。
5. 本業に関する目標 ①不良削減 ②経費削減 ③5Sの推進(パトロール)	不良削減のためにQアップ会議の実施。 無駄のない発注を実施。 5Sパトロールの実施。
	次年度の取組内容
	継続して各Gr協力して取り組んでいく。

## 6. 環境関連法規制の遵守

### 1. 当社に適用となる主な環境関連法規

法規制等の名称	遵守事項	遵守状況
フロン排出抑制法	簡易、定期点検実施	遵法
浄化槽法	保守点検実施、法定検査実施	遵法
騒音規制法	特定施設設置、変更時の事前届出	遵法
振動規制法	特定施設設置、変更時の事前届出	遵法
廃棄物処理法	委託基準（契約書・許可証）、マニフェスト交付・保存及び交付状況報告	遵法
PRTR法	化学物質の把握及び届出	遵法

### 2. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

2023年4月1日の環境関連法規遵守状況の確認において、環境関連法規への違反はありません。

尚、関係当局よりの違反等の指摘は過去3年間ありません。

## 7. 代表者による全体の評価と見直し

年間を通してエコアクションに取り組んだ結果、今期は過去最高の売上になり、原単位で見ると目標は達成できているが、削減率は廃棄物以外プラスになってしまっている。しかし、二酸化炭素排出量の90%を占める電力は全体で11.06%の増加であり、各部とも節電を意識して取り組めてきている。  
廃棄物に関しても、油や紙などを再利用し、また分別も出来てきている為、16.3%削減できたのだと思う。来期も継続して取り組みましょう。  
水資源に関しては、本社で漏水していたことにより使用量が増加してしまった。月1回漏水の点検を行い、無駄のないようにしましょう。  
全従業員に対して、定例会などを活用し教育、実績把握を行い、更に高い意識を持ち活動出来るようにしていく。